

浄泉寺護寺会報

URL <http://e-jousenji.com/>

発行者 浄泉寺護寺会会長 赤 間 栄 夫

温故知新

護寺会会長 赤 間 栄 夫

皆様には浄泉寺の護寺会運営に
常日頃ご協力を賜り厚く御礼申し
上げます。

去る6月29日に浄泉寺の本堂に
於いて護寺会の総会が開催されま
した。光陰矢の如しと申します
が、はや一年の二分の一が過ぎ去
りました。省みますと昨年の12月
20日には、同朋の会（通称宝池会）
が結成されました。会員数は約50
名で、会合は原則として毎月一回
20日の午後2時から開催され、会
費は年間一人千円で、会員一人ひ
とりが疑問に思っていることを議
題にして、皆さんで話し合うとい
う形式で和気藹々とした雰囲気
の中で開催されております。皆様の
ご入会をお待ちいたしております。

今年の5月18日には春の法要が
開催され、その中で帰敬式が举行
されました。浄泉寺ではこれまで

どちらも経験したことがなく初め
ての行事でしたが、帰敬式には11
名の方々が法名をいただきました
た。法名は亡くなった時にいただ
くものであると思っておられる方
が多いのではないのでしょうか、法
名は生存している方が自分のあり
方を見つめ直し仏教を聞く生活を
始めようとした時にいただくもの
なそうです。法名を希望する方は
浄泉寺にお申し込みください。春
の法要は来年以降も毎年継続して
まいります。

秋の行事である報恩講は、これ
まで永年にわたり護寺会の皆様に
ご協力をお願いいたしております
ので、今回からの春の法要は同朋
の会の皆様にご協力をいただきま
した。次回以降も宜しく願ひ申し
上げます。

皆様もすでにご承知のことと思
いますが、浄泉寺の墓地の中にある

松の木が枯れてきており、台風や地
震により倒木し墓石を破壊する恐
れがありましたので三本伐採いた
しました。また境内も雪解けの時
とか、雨天および雨上りのとき境
内に水溜りができ、これまでも砂利
を入れるなど補修して対応してま
いりましたが、焼け石に水の状態
でしたので、アスファルトの舗装に
いたしました。高齢者や足の不自
由な方もお蔭様で安全に歩行でき
ます。経費は45万円と170万円
で合計215万円です。浄泉寺で
支払いをしておりますので皆様に
お知らせいたします。

総会にご提案の庫裡の改装工事
費約2千万円への助成として特別
会計の維持改善基金6,191,9
04円から500万円の支出も含
めて、提案事項は一括ご承認を賜
りました。厚く御礼申し上げます。

これからも皆様のご協力により
総代会・護寺会・同朋の会が切磋
琢磨され浄泉寺の更なる隆昌を心
から祈念申し上げあいさつといた
します。

山 伏 弁 円

責任役員 赤 間 栄 夫

親鸞とその弟子についてのエピソードはいろいろ語り伝えられています。その中でも代表的な山伏弁円のことを紹介します。

水戸線で小山方面から水戸へ向かい、稲田駅の一駅手前の福原駅で降りて県道を南東方面へ車で20分程の所に板敷山という山があります。その麓に大覚寺という寺があります。正式には板敷山大覚寺と号しています。後ろに板敷山、県道を隔てて加波山^{かばさん}の峰が仰がれる閑静な緑深い山村です。大覚寺の境内には寒山竹や四方竹が群生しており「裏見^{うらみ}無^なしの庭」の池には蓮の花が咲き揃い、筑波山ならぬ加波山のガマが列をなして産卵にやってくるそうです。

この板敷山の地は、親鸞が稲田の国府のあった石岡や柿岡に向かう通り道であったようです。また親鸞が『教行信証』著述のために

鹿島神宮に所蔵されていた一切経（釈尊の説かれた経論を集大成したもの）を参照するために通った道筋にあたっていました。

▼修験僧

弁円という山伏がこの付近に住していました。弁円は加持祈祷をこととする修験僧として、多くの信者を集めていました。ところが近くの稲田に居を構えた親鸞という坊主が、南無阿弥陀仏一つで凡夫すべてが救われるという教えを説くに及び、信徒も一人減り二人減りというように誰も自分の所へやってくるなくなりました。

「おのれ、につっき親鸞め」と憎しみをつのらせた弁円は、親鸞が稲田から通って来たこの板敷山で待伏せして親鸞を害そうとしたのですが、なかなか出会うことが出来ませんでした。そこで、山頂^{じゅつそ}に護摩壇を設けて三日三晩、呪詛

したのですが、それでも思いを遂げられませんでした。

業を煮やした弁円は、それではと弓矢や刀を携え、稲田の草庵へ押し掛けました。押し入って親鸞に対面した途端、害心もたちまち失せ、あまつさえ後悔の涙が眼に溢れて来たそうです。

ややしばらく間があき、日頃の積りつもった思いを話した弁円なのですが、親鸞は少しも動揺した様子は見えませんでした。弁円はたちどころに弓矢を折って刀を捨て、頭巾をとって山伏の衣を脱ぎ捨て、頭を剃って仏教に帰してついに極楽浄土に往生するという素懐^{そかい}を遂げることが出来たそうです。これが山伏弁円改め明法房の逸話で、この明法房開基の寺が上宮寺（茨城県那珂郡那珂町）です。明法房が親鸞門下に帰依したときの歌に

山も山 道も昔にかわらねど
かわりはてたる 我が心かな
が有名です。

晩年、明法房が亡くなったこと

を聞かされた京都の親鸞は手紙（末灯鈔）の中で「明法房往生の本意とげておはしまして候こそ、常陸国うちの、これにこころざしおはしますひとびとの御ために、めでたきことにて候へ」と感慨深く語っています。

板敷山の頂上には、親鸞を呪詛した弁円の護摩壇跡が残っていて往時を偲ぶよすがとなっていました。

親鸞には多くの門弟があつたことはすでにお分かりと思いますが代表的な弟子とその開基の寺院を二十四輩^{にじゅうよはい}と称しています。それらの寺院を参拝することを御旧跡参拝といい、浄土真宗の門徒にとつて一生に一度はなすべき願いでもあつたのです。

常陸を中心とする関東の各地には代表的な門弟たちを中心にしてそれらを支える門徒の集団がありました。このような門徒の集団が底辺となり、親鸞の浄土真宗の教団を支えていたのです。

（「親鸞の教えに学ぶ」より）

浄泉寺春の法要（つどい）厳修

浄泉寺住職 釋 證 信

去る5月18日(日)浄泉寺「春の法要（つどい）」が厳修されました。護寺会報の紙面をお借りして報告とお礼を申し上げます。

▼表白文

敬って ご本尊阿弥陀如来のご尊前に 謹んで香華を供えて申し上げます

みほとけの五劫の願い 阿弥陀如来の不可思議なる光の中に生きた宗祖親鸞聖人をはじめ あまたの先達が伝えた大河の如くなる勸進「ただ念仏して弥陀にたすけ参らすべし」の教法 加えて門信徒皆様並びに有縁の方々のお力に支えられ 本日ここに 浄泉寺春の法要を厳修する運びとなりました

省みれば平成六年本堂建設の大事業完成から二十年の時を超えて 身と心の帰依処として発てとの諸菩薩の呼びかけに促され 新たな念仏者の誕生を願う集いとして発進出来るご縁に恵まれたこ

とに 深い感謝と大きい感激ひとしおであります

この度の法要を厳修するにあたり 思いを新たにして 人と生まれた意味の深さと生きる喜びを見出されるよう念じつつ 生涯を賭して南無阿弥陀仏の道を歩んで参りますことを敬って申し上げます

平成二十六年五月十八日

浄泉寺住職 釋 證 信

【注釈】「表白」とは法会の時その趣旨を三宝及び大衆に告白すること。また、その文（広辞苑より）

▼春の法要実施への想い

平成23年4月、私達浄土真宗の宗祖親鸞聖人750回ご遠忌が開かれようとした矢先の3月11日、未曾有の東日本大震災に見舞われました。ご遠忌法要は50年に一度のことで、私達一人ひとり生涯に一度の勝縁であります。計画をしていた団体参拝は中止の止むなきを得ませんでした。

団参の大きな柱の一つは帰敬式を受けることであり、予定していた人々はその想いを何とか果たそうと念願していました。

▼帰敬式と同朋の会

本来帰敬式（おかみそり）は本山ご影堂（宗祖親鸞聖人を安置）でのみ行われて来ましたが、近年、真宗寺院どこの寺でも実施できることになり「浄泉寺での帰敬式を」との声も上がり、

実施に向けて思考を重ねた結果、まず浄泉寺同朋の会を組織することになりました。

同朋の会は昭和36年宗祖親鸞聖人700回ご遠忌の折、浄土真宗の人々は、僧侶、門徒の隔てなく、共に聞法者として御同朋御同行の念仏生活者を生み出そうとする運動で同朋社会の顕現することを目標に展開されて来ました。浄泉寺同朋の会は昨年12月20日結成され「月に一度は寺参り」を合言葉に集い、話し合いの輪を広げています。

一方今年3月12日浄泉寺総代会を開き、春の法要実施に向けての会議を持ち、法要の主催を決定致しました。直ちに準備に入り、先ず、本山で毎年4月1日から5日行われる春の法要に参加して、いよいよ5月18日の浄泉寺春の法要・帰敬式に臨みました。



▼春の法要の実施

これまで浄泉寺最大の行事は恒例の報恩講が毎年11月23日に厳修されております。このことは宗祖のご命日（11月28日）を縁とし各寺で厳修される行事で、この度の春の法要は4月1日が宗祖の誕生日と4月8日のお釈迦様の誕生を期しておりますことを念頭に聞法者の誕生を願いました。

春の法要は浄泉寺の歴史上はじめてのことであり、案内状から内容に至るまで、同朋の会の人々と相談を重ねてまいりました。帰敬式受式者は「先ず役員からその範たれること」として11名が受式され、当日は70名を超す参加者の中、華やかな春の法要に続いての帰敬式は荘厳な雰囲気で終始素晴らしき記念すべきスタートが出来たと思っております。

▼最後に

ご支援くださいました沢山の方々に心からの感謝の思いをお伝えして報告とさせていただきます。南無阿弥陀仏

浄泉寺護寺会総会報告

平成26年度浄泉寺護寺会総会が去る6月29日(日)午後1時から開催されました。

開会に先立ち、出席者全員で「真宗宗歌」「正信念佛偈」を唱和、続いて「俱会一處」の前でご住職の読経・焼香の後、総会の開会となりました。

総会は蘇武則行理事司会のもと、会長挨拶に続き、議長に古内初夫氏（東川原町）を選出、各議案の審議が行われ、すべて満場一致で可決承認されました。

総会終了後には例年どおり懇親会が行われ、ご住職お手製のお料理に舌鼓を打ちながら、会員相互の親睦を図りました。

▼提出議案

- 平成25年度事業報告
- 平成25年度収支決算報告
- 本堂建設後の特別会計報告
- 監査報告
- 平成26年度事業計画
- 平成26年度収支予算

お盆の行事について

◎8月7日、午前5時から一斉清掃（墓地、境内地）、各自の墓地と本堂境内周辺の清掃を行います。

6時から朝の勤行（おつとめ）、本堂で茶会、7時に解散となります。

◎8月13日から16日の夜6時30分～8時、万灯籠会が行われます。

参道両側の灯籠に、赤あかと灯がともり、幻想的な雰囲気の中で墓参りは、夜の風物詩ともなりました。是非、ご家族揃って出かけください。

なお、灯籠記名のお申し込みは地区役員か寺までご連絡ください。会費は一基千円となります。

お墓参りをお願い！

- 造花はあげないでください。
- お供物はお持ち帰りください。
- 茶わん、カン類等、燃えないゴミはお持ち帰りください。
- ゴミ置き場には、紙、樹木、生花以外は捨てないでください。

あ

と

が

き

この一年、浄泉寺に大きな動きがあった。長い間の念願であった同朋の会の設立で、それをもって「春の法要」を継続的に毎年実施するということである▼会設立にあつては準備のための世話人会を設け4か月の検討を経て設立し、今年五月には法要を開催することが出来た▼春の法要はご住職の希望で「音楽を取り入れての法要にしたい」とのことだが、誰一人その内容を知る者はいない。更に「浄泉寺の一大行事の報恩講は護寺会が主体となつて行っているので、春の法要は同朋の会が中心となつて進める」と総代会で決定された▼遂にその日が到来。不安の中で式は進むが案ずるより産むが易し。終わってみれば「何とかやれた」という安ど感と、経験したことによる自信とも思えるものを感じた▼反省点も多いが、それは来年の計画に反映して行くこととしよう。次の法要は更に前進！（実行委員）